

2019年度「小山敬三美術館」春～秋期企画展

「島崎藤村と小山敬三展」

～ 文豪は 絵を描くように書き 若き画家に夢を託した ～

■詳細情報

- (1) 日 時
平成31年4月20日（土）～令和元年11月4日（月・休日）
午前9時～午後5時
- (2) 場 所
小諸市立小山敬三美術館 第二展示室（〒384-0804 小諸市丁221 懐古園内）

(3) 内 容
島崎藤村は絵描きになっていたかもしれない

洋画家・小山敬三（1897-1987）と文豪・島崎藤村（1872-1943）との接点を知る人は、あまり多くありません。

藤村は詩人、小説家として優れた作品を残していますが、今日我々が当たり前のように使っている国語の基礎をつくった一人でもあります。自然や人をありのままに描写する文体は、藤村が小諸に住んでいた頃に始まる研究の成果です。「千曲川のスケッチ」に代表される自然な文章は、その題名が示すように絵画のように描写するという考え方に基づいています。

藤村は、子供のころから絵画に強い関心を持っており、一時期、画家になろうと考えたことがありました。文筆家になってからも絵画に対する関心は衰えず、亡くなるまで絵画と文章の芸術的接点を求め続けました。二人の御子息が画家になったことも、このことと無縁ではないと考えられます。

藤村と小山家は深い親交があった

小山敬三は、藤村から25年遅れて、同じ信州は小諸の旧家に生まれました。藤村が教師として籍をおいた小諸義塾は、小諸の人たちが費用を出し合って設立した学校で、敬三の生家も支援しました。義塾に併設された女子学習舎には、敬三の姉喜代野が通い、藤村の教えも受けました。藤村は、小諸を去った後も小山家と親交がありました。

藤村の助言が画家小山敬三の生涯を決めた

敬三が画家を志した時、父小山久左衛門は藤村から助言を受けるように勧めました。藤村は、訪ねてきた敬三に対し、自分がフランスで見てきた経験をもとに、西洋絵画の本質を学ぶためにフランスへ留学することを勧めます。このことが、後に東洋の精神と西洋の技術を駆使する画家小山敬三の出発点となりました。

また、藤村は、フランスへ旅立つ敬三に、ヨーロッパに行くのなら是非スペインに行ってその絵画と風光を見てくるように勧めました。敬三は、スペインの知識がなく、滞欧も終盤になって「藤村先生があれほどおっしゃったのだから」という気持ちでスペインを訪れますが、このスペイン旅行がその後の小山の芸術の礎となるほどの意味をもつことになりました。

このように、小山敬三は、人生の節目に藤村から道を指し示されることで、芸術家として高い領域に達することができたと言えるでしょう。

藤村はその後、画家として独り立ちした敬三の精神的な支えになり、敬三は、終生藤村から受けた恩を忘れることはありませんでした。

本展では、小山家や小諸市立藤村記念館に残る資料などにより、この二人の巨人の接点を明らかにすべく試みました。

(4) 入館料

一般 200円 小・中学生 100円

懐古園共通券の場合

一般 500円(400円) 小・中学生 200円(150円) ()内20名以上団体料金

■問い合わせ先

小諸市立小山敬三美術館 担当：学芸員 中嶋 慶八郎

TEL 0267-22-3428 Eメール keizo@city.komoro.nagano.jp